

## 高血圧症について

## 降圧目標(診察室血圧)

75歳未満の成人	130/80mmHg未満
糖尿病患者	130/80mmHg未満
CKD患者(蛋白尿陽性)	130/80mmHg未満
75歳以上の高齢者	140/90mmHg未満

日本高血圧学会は2019年、5年に一度の高血圧治療ガイドラインを更新した。更新されたガイドラインは、降圧目標が前回より厳しくされていた。高血圧症の治療は第一に生活習慣の改善とされているが、降圧目標が厳しくなると降圧剤の需要も進み、そのために複数ある降圧剤を組み合わせることがある。

☆血圧は、心拍出量と末梢血管抵抗の二要素からなる

$$\text{血圧} = \text{心拍出量} (1 \text{ 回拍出量} \times \text{心拍数}) \times \text{末梢血管抵抗}$$

## 利尿薬

・体の水分を外に出して循環する血液量を減らす

当院採用薬: フルイトラン、ソルダクトン

## β遮断薬

- ①心臓のポンプの機能を抑えて、心臓の働きを弱める
- ②血圧を上げようとするレニンの産生を抑制

当院採用薬: ビソプロロールフマル酸、オノアクト、インデラル、カルベジロール

## Ca拮抗薬

・血管を狭めようとするCa<sup>2+</sup>の動きを止め、血管を広げる

当院採用薬: アムロジピン、ニフェジピン、アダラート、ニカルジピン

## ACE阻害薬(アンジオテンシン変換酵素阻害薬)

・血管を狭めようとする酵素を阻害して、血管を広げる。

当院採用薬: エナラプリルマレイン酸塩、イミダプリル塩酸塩

## ARB(アンジオテンシンII受容体拮抗薬)

・血管を狭めようとする酵素を阻害して、血管を広げる。

当院採用薬: ロサルタン、テルミサルタン、オルメサルタン、イルベサルタン、アジルバ

高齢者への降圧剤の投与は転倒のリスクが高まるので、日常でのふらつきなどの確認が必要です



## 参考文献

・高血圧治療ガイドライン・エッセンス

[https://www.jhf.or.jp/pro/a&s\\_info/guideline/post\\_3.html](https://www.jhf.or.jp/pro/a&s_info/guideline/post_3.html)

・今日の治療薬 2019

・NEW 薬理学(改訂第七版)

・薬が見える 1